

連載

【試論】民族総福音化への道 (1)
先ず早天祈祷から①副総裁兼事務局長 手束 正昭
(高砂教会牧師)

「日本民族総福音化」。何という大きなヴィジョンであろうか。私がこの余りにも大きな務めを託された時、あのモーセと同様に私もまた大いに躊躇した。一体、非力な自分にこんな壮大な課題を担い、くことができるだろうか。できれば降ろして頂きたい。そんな心境だった。しかも、モーセと決定的に異なっているのは、モーセのように主からの直接的な啓示があったわけではない。親しくしている韓国民族総福音化運動総裁の申賢均師からの依頼によるものであった。受諾を保留すること約一年、「クレネ人シモン」の心境で私は漸く決心をした。それは、都度に我等の愛する祖国日本の衰退減少の兆候を眼のあたりにして、何とかせねばという思いに駆られてのことであった。不思議なことと言ふより、主の摂理と言ふべきであろうか、丁度同じ頃、関東地方に民族総福音化運動ののろしが上がった。私はこれを「時のしるし」と受けとめ、彼等と合流して、本格的に全国規模の運動体としての「日本民族総福音化運動協議会」を立ち上げることができた。そして、総裁として奥山実先生を推戴させて頂いた。

私がこの運動に立ち上がる決心をした時、先ず何よりも先に、私が始めなくてはならないと思つたことがある。高砂教会全体の本格的な早天祈祷会の開始である。勿論それ迄も早天祈祷は行なわれてきた。六時頃に有志の人々が聖堂にやってきて自由に祈り帰つていった。教役者達は七時に教会事務所

に集まり、約一時間共に祈り、一日の打ち合せなどを行なっていた。しかし、これでは不十分である。そこで韓国の教会のように、讚美やメッセージを伴った本格的な早天祈祷会の必要性を覚え、それを断行した。思うに、韓国の民族総福音化運動を成功に至らしめた原動力こそ、早天祈祷にあるのではなからうか。だから、日本民族総福音化運動を成功に至らしめる鍵も、早天祈祷会の成否にある。つまり、日本の教会が韓国の教会のように、どの教会に於いても早天祈祷を励行するようになるか否かがある。だから、日本民族総福音化運動が何よりも先ず提唱すべきは毎日の早天祈祷会の開催であることは疑いない。早天祈祷なくして、日本の霊の壁、伝道の壁を打ち破ることはできない。早天祈祷なくして、教会の継続的な復興も成長あり得ない。神の恵みによつて一時的に教会が復興し成長することはあつても、早天祈祷を怠るならば、やがてその復興も成長もストップすることは、火を見るよりも明らかである。それ故に、主なる神は教会に復興と成長をもたらす時、必ずその教会に(特に牧師に)早天祈祷をすることを促すものである。

2006年度評議委員会・理事会開催

日時■6月5日(月)
午後2時～評議委員会
午後7時～理事会
場所■お茶の水クリスチャンセンター

オープンセミナー開催

虹時■6月6日(火) 午前10時～
場所■お茶の水クリスチャンセンター
講師■マーク・R・マリンス(上智大学教授)
「メイド・イン・ジャパンのキリスト教」著者
会費■1,000円

そんな日が何日も続いたが、やがて元の木阿弥に戻った。元來、私は体が丈夫な方ではない。だから、早朝に起きることは至難であった。しかし不思議なことに、聖霊の圧倒的満たしを受けていた頃は、自分でも驚く程、苦もなく早朝に起き、祈ることができた。そして霊的には勿論のこと肉体的にも以前とはうって変わって充実した日々を過ごすことができたのである。もしその頃の早天祈祷がずっと継続していたならば、もつともつと私の教会は大きく復興し成長を遂げていたであろう。しかし、その頃の私は早天祈祷が如何に大事で力あるものであるかを十分に認識しておらず、それを自らの信仰生活に於いても教会形成の中に於いても、定着させることを怠ってしまったのである。今考えると、悔んでも悔みきれない。